

17
82
15

75

每月刊行 卷一

西洋雜誌

江戸開物社



イ 87
82
/

西洋雜誌

西洋諸國の新聞紙局ありて。公私の報告。市井の風説を集め。或は毎月。或は毎七日。或

ハ毎日これを印行し。互に新報を得るを競ふ。就中英吉利の如きハ。新聞局の数六十有餘あり。万国に勝りて最盛なりと云。又諸学科の社中も。毎月出版の叢書あり。新發明の説を泄さば集録し。速に同社に傳



ふるを以て。學術の日、子開くる、莫極めて速
なり。吾等竊に其例を慕ひ。諸学科の新説
ハきく。日用便宜の方法等を集めて。海
内の同好子領んと欲し。今先二三友人の
譯稿を抄出し。嚆矢とす。希くハ博雅君子
吾等の志を襄成せよ。

慶應三年冬十月

楊江柳河瞰識



西洋雜誌卷一

西洋諸國近代盛衰の大略

去る安政五年以来。今年に至るまで。條約を以
て通信の國。十一ヶ國なり。すなわち

オランダ國 フランス國 アメリカ合衆國

イギリス國 オランダ國

右五ヶ國ハ安政五年。條約を以

ポルトガル國　プロイセン國　デネマルカ國
 スウェーデン國　ベルギー國　イタリヤ國
 ハンブルク國　エウロパ洲に在り

右六ヶ國ハ其後引續き追々條約を成し
 國なり。唐國ハ通商有る最久しといふも。
 近來改め條約ハ無之。右十一ヶ國の外なり。
 此外西洋にて有名の國ハオーストリア國。イス
 パニヤ國。スウェーデン國。トルコ國。ゼルメン列國三

十餘國。ギリシヤ國。アフリカ洲にてエジツト國。
 アジヤ洲の安南國。暹羅國。ビルマ國。ハルマ國。
 アラビヤ國。アメリカ洲のメキシコ國。ブラシル國。
 ペーリュ。ボリヒヤ。チリ。ラフラタ等の合衆諸國。
 其他の如きの國ハ如きども。先づ是等の國
 の盛衰の如きを知る事。何の学科を
 學ぶとも。又通商交易を考へるも要用あり
 故に西洋歴史并に地理書の内より。各國

帝王の年代。或ハ近頃の治乱真亡を抄出
シ。其大略を記シ。もとより雜記の事なれ
バ。最後の次身も。詳略も一様なり。看者
これを恠むことあり。

オロシヤ國帝の系圖

ミカエル・ロマノウ

慶長年中國王となる
正保二年没

カレキシス

正保二年より延宝四年まで

ヘオドルオニ

延宝四より天和二まで

女イワシオ五

天和二より元禄二まで

ペートル大帝

元禄二より享保十まで

后カタリナ

享保十より享保十二まで

アレキシス

早世

ペートルオニ

享保十二より享保十五まで

女カタリナ

メクレンブルグ侯カール・レオポルドに嫁す

女アンナ

享保十五より元文五まで

女アンナ

ワルヘンブルグ侯アントン・ウルリキに嫁す

女イワンオホ

元文五年迄。ほい、あく廢せらる

女アンナ

ホルステイン・ゴットルフ侯カール・フレデリキに嫁す

女エリサベツト

寛保元より宝暦十二まで

ペートルオホ三

宝暦十二より十三まで

后カタリナオホ二

宝暦十三より寛政八まで

ポウルオホ一

寛政八より享和元まで

アレキサンドルオホ一

享和元より文政八まで

コンスタンティン

位を嗣がば天保三年没

ニコラースオ一

文政八より安政二ナド

アレキサンドルオ二

安政二年位を嗣ぐ
即ち今の國帝ナリ

文祿慶長の頃。オロシヤ國大ニ乱生ス。隣國ニ
攻られ。衰微セシム。ミカエル王の代ニ至リテ。
國政を改革シ。アレキシス王の代ニ兵制を
改メ。強大の國トス。ペートルの代ニ至リテハ。
自ら和蘭英吉利等の諸國を周遊シ。造

船航海の學を傳習シ。交易の路を通シ。富国强
兵の術を尽シ。民ニ礼義を教ヘ。城郭を築キ。不
毛の地を開キ。一代之成功ヲ得。數
ヘ難シ。此ペートルの代ニ遷^{ツク}リ。都をペートルス
ブルグと云ふ。此代より帝号を稱シ。全世界中
第一の大國トス。ペートル帝没シ。后カタリナ
國政を握リ。翌二年。此後も亦英邁^{スグレタカ}の女主人
トシ。國勢を墜^{オト}ス。然るニカタリナハ先

帝の後妃とならざるも前。大臣メンシコフと
つゝ者の侍妾もあつし故に。帝の没後復メンシコ
フと相通じ。后没し後。ペートル帝の孫ペートル
第二。位を嗣ぐ。ペートル第二の父アレキスも是
より先^{サキ}に。父帝の意に忤^{サカ}ひて誅せられしを。扱
メンシコフも獨り國政を擅^{ホシ}りし程無く。程無
く貶竄せられしシベリヤの地に終まり。ペートル
第二没し女主アンナ位を嗣ぐ。此時代より

志ばくトルコと國境の地を争ひて戦争あり。
オロシヤ方利を得るも度々も國勢殊盛
なり。其後アレキサンドル第一の世に至り。フラン
ス帝ナポレオン第一。大軍を以て攻寄せられ共。
終に敗北し歸き。ポーレンも元来オロシヤ
の隣國なり。昔ハオロシヤ國と争ひ競ひ。程
の勢なり。後末次第に衰へ。漸くオロシヤ
は蠶食せられ。オロシヤ帝ニコラーズの代天保

三年以来。全くオロシヤの領地となりし。ポーレン
の都ワルサウといふ地。オロシヤより代官を置
きて治むる莫とかりぬ。嘉永六年トルコ國と
戦争す。起す。イギリス。フランスの兩國よりト
ルコを援け。互に勝敗あり。此戦のいまだ。後ら
ざる間。ニコラース帝没せし。其子アレキ
サンドル第二位を嗣ぐ。此代となりて。安政三
年。英佛トルコの三ヶ國と。オロシヤ國との和

議整ひ。フランスの都ある。パリと。おひて會盟し
た。文久三年。ポーレンの地より一揆起す。騷動
あり。是も程多くをぶかりたり。初オロシヤ
國の使節始めて日本に来りし。ハ。文化元年
よりアレキサンドル第一の代あり。此時通信通
商を許され。空く歸國し。然るに文化
三年オロシヤ人蝦夷地を乱妨せし。莫りし。
日本よりオロシヤを仇敵の如く思ひ。其後

オロシヤ人ゴロウニンといふ者。偶日本に来りし
を。彼乱妨人の同類なると疑ひ、
獄に繋ぎて弘明あり。終にゆるされて帰
國を得たり。それより三十餘年を経る。ニコ
ラーズ帝の代に布帖廷フチヤチンやりの者を使節と
し、日本と差越し、
交際をめぐりて開け。互に往来もる。夏とあり
り。

○國を富まむは先づ學術を開くべきの
論

古の學士ロビケッド曰。此地球に無數の珍宝は
あり。取らざるも尽る夏無く。随て用ふれば随
生む。此理常人の能く知る所あり。只博
學多智の人のみこれを了解せしむるなり。
蓋し財ハ一人の財あり。天下通用の財は
あり。物産ハ一國一邑の物あり。萬國共用は

物有り。故に有を以て無に換^カらる。互市通商の
法は自ら天理に合へり。然れども只自然に任
まらざる。人力を尽ちて無^クれば。之を取て
足らざる時あり。之を用ひて竭^ツるときあり。故に
金石を採鍊し。草木を培養し。酒を醸し。塩を
煎じ。糖を製し。蠶を養ひ。布帛を織り。紙を漉^スき。
油を搾り。蠟燭を造る等。を初め。悉く人
工を假りてあり。されば。物産を充足せしむるは

あり。物産充足せざれば。國を富ますは莫能^ス
也。故に物産を開くを以て富國の第一義とす。
然るに無^ク學無^ク術。徒に物産を開くことを
求む。費多くて功少し。是を以て金石を採
るも。草木を養ふも。塩を煮るも。油を搾
るも。糸を績^トるも。機^ハを織るも。皆人工の上
に人智を尽し。費を省き。得る所を殖^ヤむの學
術有り。是を即ち重學と化學との二科とす。

此二学も百工の利を興すの根本なり。此學術
盛トレハを行トレハもトレハもトレハきハ其極殆造化の功トレハに参トレハるトレハ至
らんトレハ。豈唯國を富し兵を足トレハそのトレハあトレハんや。
重學トレハも西洋名メカニトレハといトレハ。一名器械
學是なり。化學も西洋名ケミトレハー又トレハをトレハセトレハミトレハと
いトレハ。即ち分析學のトレハ支トレハなり。各其専門の書
を撰トレハるトレハ學トレハぶトレハ。尚此外。金石學。植物學。動
物學。百工製造術等。いトレハづれトレハも其學科トレハに入トレハる

學ぶべきなり。

○ダイヤモンドも天下第一高價の物なり。話

ダイヤモンド漢名鑽石。又金剛石トレハといトレハ。其質
透瑩スキトホリ多く八面の形に結晶し。其色或ハ水
晶の如く。或ハ淡黄ウスキ。或ハ褐色トビイロ。或ハ青き
黒きと有り。其堅き支萬物に冠トレハたり。之
を琢トレハきトレハるトレハ稜カサを尖スチくトレハなり。柄トレハに嵌ハめトレハるトレハ
者。以トレハるトレハ水晶トレハをトレハ玻璃ビイドロをトレハ切トレハるトレハべし。此

物東印度及びアメリカのブラジル巴西國より出
づ。其細コトきりりのハ皆これを以てを以てビドロ玻璃を
切りの料とん。價甚貴うん。稍大粒を
りりのハミカ琢カきく飾カサとん。其價の高き
夏本文ニ云つるが如し。

金剛石の稍大者ものハ極めて罕あるが故也。其
大なるハ随く價愈貴し。大抵重さ一カラット葛力より
重きりの既ハ稀なり。

カラットハカリメ秤量の名。四グレイント一ト此方
の六厘九毛許ニある。

天生の金剛石ハいまミ琢カる者。一カラット葛力の價三

十フランクより三十六フランク。我通用金四兩二分よ
り五兩一分二分許

琢カきりりのハ大抵四十八フランク。我七兩
一分許若し

一個の重さ一葛力よりも重くれば價随て騰

貴也。二葛力の者も既ハ百九十二フランク廿九
兩許

なり

金剛石の最有名^ニ且高價なるものハ。印
 度のモゴル國帝所持の品なり。是ハ天文十九
 年。印度のゴルコンダといふ地より獲る者^ニ
 一。重さ二百七十九萬力半。我十八年
九分許 巧^クりて。
 大さ雞卵の半よりひとし。是を琢^ルる^ル時
 ハ。九百萬力六十二分
三分許 巧^クりしと云。或る商人此
 價を一千百七十二萬三千二百七十八フランク
 凡百七十五万八十と定めしり。モゴル國滅亡の後。
 五百兩許あり

誰^レが手^ニ落ちし^ルや。詳^シな^クば。

オ、ストリヤ帝の所持の金剛石ハ。重さ百三十九
 萬力及三^ク尺^ク。價二百六十万八千三百三十
 五フランク三十七万六千
二百五十兩許 あり。

又オロシヤ帝の宝庫に珍藏する金剛石ハ。大さ
 鳩の卵の如く。重さ百九十三萬力十三分
三分許 あり。此

金剛石。初めハ印度のシリガンといふ地^ニ在
 る婆羅門宗の寺院の佛像の眼中^ニ藏^メめ

あまししをフランス國より印度に遣らし置
ける一人の歩兵。不圖悪心を起し、カケオチ 仏眼を
穿ち取て。何國ともなく亡命せり。其後或る
船主これを見五万フランク七千五百兩許に買ひ取りて。
ヨーデン國人某に二十万フランク四万五千兩許を賣
渡し。此ヨーデン人再びギリシヤ國の一富商に
之を賣り復莫大の利を得たり。終に安永元
年の頃。オロシヤ國の女主カタリナ第二。彼ギリ

シヤの商人よりこれを買取て。現金二百五十万
フランク三十七万五千兩許を巧む。尚其後此商人一生
涯年々十萬フランク一万五千兩許を給しゆり。此金
剛石今は至るまでオロシヤ帝の宝物なりと
云ふ

○新銀并にアリユミニウムと名くる金屬

の説

西洋よりボタ 鐘。時計の殻カハ。小刀の殻サシ。其外日用

の器を作らふ。銅鍍と外觀美ならん。錫鉛ハ
柔く損じ易き故に。種々の調合金屬を用
ひて銀の代りとかん。其方を名けし新銀と云
ふ。又アルゼンタンとも云ふ。就中其良方と稱
するものも

銅八分 亜鉛五分 ニッケル三分 此三味
を調合しし者其色精淨の白銀に及ぶべ
ども。大抵西洋諸國通用の銀錢は異ならん。

諸國の銀錢。常方ハ銀十文
銅一分を合するなり。此ニッケルといふ金
屬和産未詳。其色鋼鉄の如く。其堅さハ鉄に
同く。火に遇て鉄より燦がしといふも。
銅と合して甜焔に入是燦れと云ハ。きやをく
燦解するなり。

アメリカ合衆國。并ニペーリ一國等の錢は。
ニッケルと銅を合せるセント錢也。但し銅
の量過多る故に。色赤を帯びて銀に似ず。

然るに近來をアリスミニウムと名くる金屬を以
て諸の細貨コメモノを造る。其色少しく銀に異なる
無く。光沢ありて鏽サビを生ずることなし。又此
アリスミニウムに銅を合すれば。其色殆ど純金の如
くなり。亦細貨コメモノを造るより後し。元來アリス
ミニウムはアリスミナの元質よりしてアリスミナと
粘土チツチの純精なるものなり。只粘土の多き故に
土類石品の内アリスミナを合むもの甚多し。故に

世界中アリスミナ有らざるの地無し。只アリスミナを
分析し、アリスミニウムを製するの費少く、故
に。方今アリスミニウムの價頗る貴し。後世化学家
の發明よりして。容易タマシクこれを製するに至るは。
萬國共々アリスミニウムを用ひる。銅鉄の用。半
廢するに至るべし。

化学家方今アリスミニウムを製するの方。アリス
ミナを塩酸トカに溶し、コロールアリスミニウムと

此物を製し。古名塩 此コロルアリュミニウム
酸礬土 とカリウム。或はナトリウムを合し。坩堝ルツボ
 入を煇トカきときハ。アリュミニウムおのづから分る
 銀色の塊とあるなり。只此カリウム或ハナ
 トリウムの價廉なり。依て。アリュミニウム
 亦得易ポットアスなり。カリウムを硝砂中の
 元質。ナトリウムを蘇打ソーダ中の元質なり。

西洋雜誌卷一

